



元氣とタイムリーな情報を提供する

五十嵐レポート

発行:「町コン」五十嵐 勉 2026年04月06日 第1262「週刊五十嵐レポート」

超訳 孫子の兵法

九州旅行へ行く飛行機の中で本「超訳 孫子の兵法(最後に勝つ人)の絶対ルール」(田口佳史著:三笠書房)を読んだ。田口氏は東洋思想研究家の第一人者。私は「孫子の兵法」は中国語の原書を含め10数冊は読んできた。

「孫子の兵法」のはじめに「五事」がある。戦う前に5つの基本問題をもって戦力を検討する。5つは「道」「天」「地」「将」「法」。

「道」は原書では、国民と君主を一心同体にさせるもの。国民は君主と生死を共にする。田口氏の超訳では、10年・20年・30年後の自分をリアルにイメージすることを意味する。「思い」と「行動」を一つにする。憂いや迷いがなくなり、困難さえも喜んで受け入れる。

「天」は原書では、昼夜・晴雨・寒暑・季節などの時間的条件を指す。田口氏の超訳では、時代性が、時代が自分のやっていることの追い風になるように計画する。「たまたま」はない。「時代の追い風が吹いた」にもっていく。

「地」は原書では、地形の有利不利などの地理的条件を指す。田口氏の超訳では、自分が活躍するフィールドのこと。自分の天性に合った分野、自分に向いているもの、競争のないオンリーワンの分野のこと。

「将」は原書では、智謀・信義・仁慈・勇気・威厳など将帥の器量のこと。田口氏の超訳では、必須能力。目標達成するための必要不可欠な能力。「現場の長であるリーダーがしっかりしていなければ、会社の目標は達成できませんよ。立派なリーダーとは智謀があって、信頼されて、部下思いで、勇気があって、部下にも自分にも厳しい、智・信・仁・勇・厳を備えている人ですよ」ということを意味している。必須能力を明確にして、研鑽に励むことが大事。

「法」は原書では、軍の編成、職務分担、軍需物資の管理など軍制のこと。田口氏の超訳では、己に克(か)つこと。自分自身を厳しく律すること。世の中には目標達成を阻む甘い誘惑が満ちている。「そっちに行ってはダメだ」と言い聞かせなくてはならない。

競争のない・他社より秀たるオンリーワンになる。周りもハッピーになる。そのための心得と実践。2500年超のロングセラー「孫子の兵法」。

ちょっと
気になる出来事

4月1日～4日まで九州の別府と博多へ旅行してきた。

別府は、いい意味で裏切られた。2000年代、地方の温泉旅館を再生していた。当時は円高で日本人がどんどん海外旅行へ行っていた。当時の旅館は海外と比較されていた。その中で日本人をどう取り組むか模索していた。

今の別府は、日本の再生のヒントがある。現在円安の影響もあり、訪日外国人が多い。それは日本全国の観光地にある光景である。しかし別府には若い日本人が多かった。繁盛している飲食店でアルバイトしている日本人に「学生ですか?」と訊くと、「ハイ、APU(立命館アジア太平洋大学)です」と答える。APUは1999年開学。30年近い歴史がある。学生や先生の大半が外国人。学校内では日本語と英語が公用語。コンビニに2回入ると、外国人がバイトしていた。2回ともミャンマーの留学生(短期大学)。

別府公園前の喫茶店に入ると、そこのマスターは2年前に東京からUターンして3代目。最近Uターンが増えている。若手の日本人も多く来ている。

「楽市楽座」。織田信長が始めた政策。今でも生きている。そして「地の利」、日本有数の温泉がある。別府は「天の時」を得た。



一口メモ
知識

友人と交際 2

弟子の子貢が「友達の付き合いはどうあるべきでしょうか」と訊いたので、「そうさな、過ちがあった時には心から忠告して善い方向へ導くべきだが、聞き入れられない場合には、無理強いをしないで見守ることだね。

喧嘩になって互いに侮辱し合うようになっては元も子もないからね」と忠告してやったよ。

子貢問友 子曰 忠告而以善道之 不可則止 無自辱焉

「高校生が感動した『論語』」(祥伝社新書/佐久協)より

●「戦略社長塾東京」小岩校 毎週日曜日・水曜日 午前10時～12時

●「戦略社長塾東京」銀座校、武蔵村山校、豊岡校 開講中。

㈱五十嵐コンサルティングオフィス 〒133-0051東京都江戸川区北小岩6-21-5

TEL.03-3659-7703 Fax03-3659-7077 info@igarashireport.com

